【授業科目】総合臨床実習後演習　Seminar after comprehensive clinical training

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦、千原 猛、星野 真理 森本 誠、多次 淳一郎、榎本 喜彦 春名誠美、北井 真紀子	3年次 後期	必 修	1	30	演習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／本科目は３年次臨地実習終了後に実施する。病院検査室のみならず、今後活躍の場となる検査センター、健康診断センター、在宅医療施設等で臨床検査技師としての総合的な能力・技術・知識の向上が図れたか、接遇能力の向上についても確認する。検査データの解釈、病態との関わりを再認識させ、臨地実習で起こった様々な問題点や疑問点を明確にし、その問題解決法を考えさせプレゼン形式で発表し、学生間での情報共有をさせる。また、臨地実習のための事前学習を検討し、後輩に対して、臨地実習に必要な事前学習を発表してもらう。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／発表の内容、スライド、プレゼンテーションについて、講義内で総括しフィードバックを行う。
実務経験に関する 授業内容	臨床検査技師の資格を持つ教員が臨地実習を終えた学生に対し、臨床検査技師として必要な知識や技術を再確認させるため、臨地実習の総まとめとして、学会形式での発表を指導する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健･医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①　臨地実習で学んだこと、問題点を共有し理解できる。 ②　臨地実習で学んだことを領域別で再確認し知識理解を深められる。 ③　臨地実習で学んだことを発表することで、プレゼンテーション能力の向上を目指すことができる。 ④　後輩の臨地実習をより良いものとするため、事前学習内容、方法を検討し、発表できる。 ⑤　訪問看護ステーション実習の学びを共有し、臨床検査技師としてできることを考えられる。
時間外学習に 必要な学修内容 および学習上の助言	臨地実習レポート、ノートをまとめ、復習する（30分） 他施設の発表についてまとめ、興味を持った検査法などについて調べる（30分） 上記例は、１単位30回科目の場合で、予習+復習に必用な時間は、1時間／１回となる。 ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第1回　ガイダンス　　第1回～第15回 高崎、千原、榎本、森本 第3回～第5回　臨地実習で学んだことを施設ごとに情報共有し、まとめる。 発表スライド作成。 第6回～第14回　各施設（病院）の発表、総括　　全教員担当 第15回　訪問看護ステーションの発表、総括　　多次、春名、北井
評価方法 評価基準	グループディスカッション形式。 発表実技、内容　70%、取り組み30%

教科書	臨床検査学科『技能修得到達度評価実施マニュアル』医歯薬出版株式会社 『臨床検査技師臨地実習テキスト』	参考書等	該当科目 医歯薬出版株式会社 『臨床検査学講座』
学生への メッセージ	多種施設での実習を終え習得した知識・技術及び、接遇など学んだことを今後の勉学に活かしてほしい。検査データの解釈、病態との関わりを再認識し、他施設の発表を受け、卒業研究に向け、新しい臨床検査技術開発につながる研究心向上につなげてほしい。		